

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	奏									
						公表日	年	月	日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点					
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	しっかり職員が障害児の観察が行える状態になっている。					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	必要に応じて他部署から適時応援がある。					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	視覚障害の利用児が空間認知できるような工夫が出来ている。また、怪我をしないような緩衝材を使用している。	利用児が主に過ごす療育活動の場には厚めのフロアマットを敷き、転倒リスクのある利用児も安心して過ごせる環境を整えている。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	活動を行うに充分清潔であり、クールダウン室がある。					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	クールダウン室があり、使用したい利用児は使用できる環境にある。					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	0						
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	毎年度、いただいた評価に基づき必要ことを改善に努めている。また、送迎時に保護者との情報交換を行っており、情報の共有をしている。					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0						
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	1		実施事項について、全体に周知徹底する必要がある。				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0		法人内では虐待防止研修や毎年テーマを決め全体研修を行っている。他にも、所属する中間組織の研修や各機関が実施する研修に参加できる仕組みが整っている。				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0		多職種で意見交換をしながら支援プログラムを作成し、法人HPに公表している。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0		ニーズや課題を分析し、最適な放課後等デイサービス計画を作成している。				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0		放課後等デイサービス計画検討会議を実施し、多職種で検討を行っている。				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0		計画に沿った支援ができています。定期的な見直しも必要に応じて行っている。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	2	インフォーマルな部分は必要充分であると感じるが、標準化されたアセスメントツールは利用者の状況を鑑みると適応が難しい部分が多い。	左記の通り、利用児の特性に合わせたインフォーマルなアセスメントを使用している。				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0		ガイドラインに沿った、放課後等デイサービス計画を作成している。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	人員の都合上、毎月のプログラムは固定の職員で行っている。しかし、イベント時はチームで計画を立てている。	チームでの立案は勤務形態の都合上、難しい部分もあるが、日々の業務の中で随時意見交換を行っている。				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1	ややマンネリ化が見られるため、改善は必要である。	様々な専門職が働く現場である利点を活かし必要なプログラムを立案していきたい。				

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0		個別療育と集団療育を組み合わせながら、支援を行っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0		打合せはその日の流れだけでなく、利用児の最新の状況の情報共有も行って。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	時間の都合上、支援終了後にできない場合は、翌日以降に行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0		支援の記録はシステムを導入し、見返しやすいように工夫をしている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	5	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	・選択場面は多く取り入れている。 ・利用児が選択できるような選択肢の提案を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0		利用児の病状について主治医に説明の機会を求めするなど、利用児が安心して福祉サービスを利用できるように努めている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0		必要時に、ご家族を通じて行っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1	今年度は対象者がいなかったが、必要時には行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	0		今年度は対象者がいなかったが、必要時には行っている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	1		新しく児童発達支援センターと連携を図る手続きを終えたところである。今後、必要に応じて研修を受ける予定である。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	情報交換はあるが、交流自体は多くない。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	2		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0		送迎時や連絡帳などを活用し、密に情報共有を図っている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	0		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0		必要時に行っている。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	0		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	0		活動内容についてはInstagramにて情報発信を行っている。また、年間行事については、保護者会を実施し周知している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	0		事業所限定ではないが、法人全体で取り組んでいる。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0		定期的に行っている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	0		利用前に確認を行い必要な対応について、保護者様に書類を記入していただいている。また、利用後に変更になった場合は随時更新をしている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	会議等にて全体共有を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0			